特集「新たな脅威に立ち向かうコンピュータセキュリティ技術」の編集にあたって

村 山 優 子†

本特集号を企画を始めた昨年春，前年に起きた9月11日の国際テロリズムの脅威が当然念頭にあり，このようなタイトルをつけた．その後の一年の間に，テロリズム，戦争，SARS等と今や地球規模に発展する新たな脅威の連続的な出現に，今となっては，本タイトルの意味するところの大きさに改めて考えさせられる．

1998年にコンピュータセキュリティ研究会（CSEC）が設立されて以来，セキュリティ技術は，ネットワークを基盤とした情報社会では，加速度的にその重要度を増している．本研究会では年4回の研究発表会に加え，毎年CSECが主催するコンピュータセキュリティシンポジウム（CSS）を開催している．CSSは，年々発表件数および参加者が増加しており，昨年度のCSS2002では，発表件数81件，196名の参加者であった．現在，わが国のセキュリティ分野の代表的な集会の1つとしてCSSは位置付られている．

本特集号は，CSECが企画した4回目の特集号である．投稿数も毎年増え，今回は，投稿数59件あり，そのうち34件を採録した．回を重ねるごとに内容は多様化しており，西垣正勝編集委員に目次のための分類をお願いしたが，現在発展している分野におけるこのような内容の分類は，なかなか大変な作業である．今回は以下のような内訳となった．不正侵入・異常検知4編，情報ハイディング3編，電子投票・入札2編，安全性評価・解析3編，ソフトウェア・著作権保護3編，アクセス制御・認証5編，ネットワークセキュリティ5編，セキュリティプロトコル・電子公証3編，公開鍵暗号・デジタル署名4編，共通鍵暗号・ハッシュ関数2編である．理論だけでなく応用の論文が増え，情報社会の現実的な問題に関わる内容も多い．今後ますます，他分野との学際領域に位置する内容が増えると思われる．本特集号が，読者の興味を誘い，セキュリティ分野のみならず他分野の研究にも役立てば幸である．

その昔，80年代後半頃だったかと思うが，インターネット分野の公的な報告書であるRFC（Request for Comments）を発行する際，その提案内容におけるセキュリティの脅威と対策案の記述を義務付ける動きがあった．ネットワーク技術者が，無理やり記述していたのを思い出す．しかし，現在，どの分野においても，セキュリティの脅威は現実的なものという認識がある．他分野の研究者がセキュリティへの参入することが，今後ますます予想される．こうした新しい人材参入も含め，今後のコンピュータセキュリティ技術分野の発展に期待したい．

最後に，関係者の方々に感謝したい．限られた時間の中で，多様な論文の査読を行い，出版にまでこぎつけることができたのは，査読者や編集委員，学会の担当者などのおかげである．特に，西垣正勝編集委員には様々な作業を行っていただいた．記して深謝申し上げる．

「新たな脅威に立ち向かうコンピュータセキュリティ技術」特集編集委員会

- 編集長
  村山 優子（岩手県立大）

- 編集委員（50音順）
  岩村 恵市（キャノン）
  岡本 栄司（東邦大学）
  菊池 浩明（東海大学）
  櫻井 幸一（九州大学）
  佐々木良一（東京電機大学）
  新保 淳（東芝）
  田中 清（信州大学）
  寺田 真敏（日立）
  中野 秀男（大阪市立大学）
  西垣 正勝（静岡大学）
  林 誠一郎（NTTデータ）
  朴 美娘（三菱電機）
  松浦 幹太（東京大学）
  松本 勉（横浜国立大学）
  宮地 充子（北陸先端大学）

† 岩手県立大学